

## 『新しいがんの診断、治療クリニックとしての挑戦』

西和田林クリニック 院長 林 賢

### <はじめに>

昨年2014年5月12日に私は新しいクリニックの立ち上げを行い、約10か月が経過したところです。今まで外科医として信州大学、NTT長野病院、国立がんセンター、昭和伊南総合病院、長野市民病院などで消化器外科医、肝胆膵外科医、内視鏡外科医として手術、患者様管理、学会活動、論文発表などの仕事に携わってきました。長野市医師会の皆様、長野市民病院の職員の皆様には今まで大変お世話になり感謝しております。外科医として手術で根治が得られる方々がたくさんいる中、進行癌など厳しい局面での管理が必要な患者様方に接する機会も多く、手術以外の化学療法、放射線治療、緩和ケアなどの治療のオーダーを行い、間近で患者様に接して来たものの、医師として無力感に襲われる機会が少なからずありました。この厳しい局面に立つ施設が少ないことに鑑み、微力ではありますが、患者様の力になれる医療機関を造りたいと考え、数年前から構想を温めておりました。この程、がん等の診断を迅速に優しく、また治療も行える機関として当院を立ち上げる事となりました（写真1）。



写真1

### <当院の癌診断のコンセプト>

当院は診断機器としてUS、CT、上部、下部内視鏡を有しておりますが、診断のコンセプトとして患者様の負担をできる限り少なくする事としました。US（アロカ日立）は初診時の腹部精査、または乳癌検診で用いております。CTは日立のSUPRIAという16列のマルチスライスCTですが、ソフトとしてCT-コロノスコーピー（大腸CT、以下CT-C）、肺気腫解析、体脂肪解析ソフトを有しており、特にCT-Cについては長野県としては初めての本格的導入となりました。現在まで240例のCT-C症例の中、8mm以上のポリープまたは狭窄疑いの66例（27.5%）はTCS（total colonoscopy）に進むことになりましたが、11例の癌（進行癌＝3例、早期癌＝2例、ポリープ癌6例他

LST (lateral spreading tumor : 腫瘍茎が低く横にはうタイプのポリープ) なども発見されており、拾い出し検査としては有用と考えております (写真2)。便潜血陽性症例の精査として大腸ファイバーの間に立つ優しい検査として今後一つの選択肢になると考えております。大腸ファイバーも富士フィルムですが、挿入感覚にも慣れ、最近ではコールドスネアを用いた安全なポリペクトミーを心がけています (写真3)。

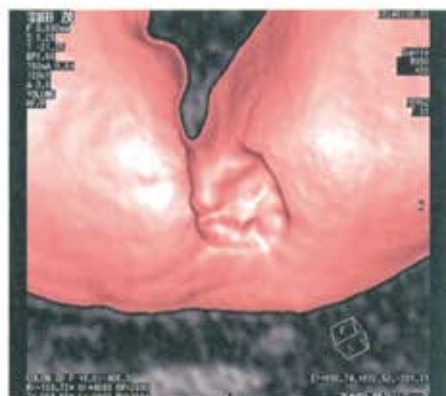


写真2

上部内視鏡は細径ファイバーとして富士フィルムの方が優れていたため、5.8mm外径の上部消化管内視鏡を導入し、95%以上の方々に経鼻内視鏡として行いました。10mm程度の内視鏡に比較し、圧倒的に挿入が楽で、患者様には静脈麻酔も施行せず、解説しながら内視鏡検査を施行し、十分なご理解をもって検査が終了しております。胃癌の診断は300例中2例でした。ピロリ菌の除菌となった症例は約30例となりました。



写真3

#### <ハイパーサーミアのコンセプト>

本院のコンセプトはがんなどの疾患の早期発見と最後まであきらめない治療であります。本院では甲信越で初めての導入というハイパーサーミア (癌の温熱治療) のためのサーモトロンRF-8を導入しました。癌組織は高温 (42~43度以上) にすると血管が拡張できずネクロシス (細胞死) に陥るという理論を用いたもので、周囲組織は血管拡張により生き残るとされ、副作用が少ないという特徴があります。この治療は標準治療としての外科手術、放射線治療、化学療法との併用により抗腫瘍効果が高まるとされておりますが、温熱治療単独でも抗腫瘍効果はあるとされ、1996年から保険収載がなされております。コスト的には3か月8回で深部腫瘍9万円と廉価な設定になっており、ご高齢者でも使用可能な機械であります。30cm~10cmのプロープにて癌および体を挟み込み、深部の腫瘍に対しては大きめのプロープ (30cm) を使用して内部加温致します。8MH (メガヘルツ) の電磁波で1,200W以上の電力を与えた場合、体内が42~43度に加温される設定となっております。患者様は基本うつ伏せか

仰向けにて治療台の上に臥床し、上下のプロープにて挟み込みます。頸部腫瘍などでは座位にて横からプロープを当てる事になります。1回の治療時間は40分ですが、患者様は相当量の汗をかき、直後にはサウナに入った後のような爽快感を得られる方が多い様です（写真4）。



写真4

11月22日の北信医学会で発表の機会を頂きましたが、当院での初期の107例のまとめとして最高齢は94歳、切除症例が約8割、Stage IVが87%という厳しい症例を対象としておりますが、8回以上の1コース以上のハイパーサーミア治療を行った症例でCR=4例、PR=10例、SD=37例、PD=11例でPR+CR=22.6%、SD=57.3%、PD=19.7%でした。さらにSDの中にマーカーの半分以下の低下症例、腫瘍が30%以上縮小した症例が8例おり、これらを含めると22例（35.4%）が縮小系という結果が得られました。約8割はSD以下なのでロングSDを含め癌のコントロールがある程度認められる結果でした。また病勢の制御により、疼痛緩和、イレウスの緩和、食欲増進、全身状態の改善など緩和ケア的な利点や抗癌剤の副作用軽減などの効果も得られており、進行癌、再発癌に対する新たな治療手段と考えられました。

#### <今後の展望>

当院ではハイパーサーミア治療の希望者が多いことに鑑み、1月13日から2台目のハイパーサーミア稼働を開始しております。県外からこの治療にこられる方もおり、長野市、長野県、また北信越の中で信頼される医療機関を目指して今後とも努力する所存です。今後とも長野市医師会の皆様には育てていただき、その任務を担って参りたいと考えております。北陸新幹線が開通し、善光寺ご開帳の行われる今年2015年、長野市医師会の益々のご発展を祈念しております。

#### 略語説明

CR(complete response) 完全寛解

PR(partial response) 部分寛解

SD(stable disease) 不変

PD(progressive disease) 増大